

富士の「宮」と、地域おこし協力隊が面白い

令和7年9月30日

地域おこし協力隊とは何か知っていますか？

富士宮で地域の方とお話すると、「宮」と言う方が多いことに気づきます。富士宮では、当たり前のことだと思われていますが、富士宮は、「富士の宮」という浅間大社の旧社号に由来し、その名称は『今昔物語集』や『新勅撰和歌集』など、平安時代や鎌倉時代の古文集にもみられる（ウィキペディア）ことからきているのでしょうか。さらには、浅間大社は、行政区による住所で言うと、「宮前町1-1」であり、富士宮全体でも中心地的な位置を占めていることや、富士地区全体で見ても歴史的に富士山信仰のもと、富士山本宮浅間大社の宿場町として、まさに富士の中心地であったことから「宮」と親しみを込めているとも感じます。

Google アースで富士宮北高校 (<https://earth.google.com/web/search/富士宮北高校/>) を検索すると、本校は本宮浅間大社をまっすぐ北上した場所に位置し、面積も同程度（本校の方が広い？）、大切な土地に感じます。

今日は、このような富士宮の中心地である「宮」から世界を俯瞰してみようという通信です。

さて、最近、地域おこし協力隊の活動を目にすることが多くあります。例えば、「若者拠点」1周年で記念祭～富士宮・チリン 服飾や食で節目祝う～（8月17日静岡新聞）、「小中高生AI使いアプリ開発～富士宮地域おこし隊インターンが企画～」（8月28日静岡新聞）などです。アプリ開発では、AIを用いたアプリ開発体験会「富士宮AIハッカソン」をチャレンジハウス「チリン」で全3回の講座を開催したとのことでした。富士の「宮」ではありますが、グローバルな視点であったり、最先端の技術に触れた上で発信したりすることは、今や、世界中のどの場所においても可能です。そのような経験を積極的にできるとよいと感じています。

この、**地域おこし協力隊とは何か、みなさん知っていますか？**地域おこし協力隊は、2008年に鳩山邦夫総務大臣が「地域力創造プラン（鳩山プラン）」の柱として提唱され、2009年度から総務省によって制度化されたものです。調べられたデータでは、2018年度全国 1,061 の自治体で 5,530 人の隊員が活躍しているといい、総務省は、2026 年度までに 10,000 人まで隊員を増やす目標を掲げていることから、現在はそれに近い隊員になっていることでしょう。政府の事業で行うというのは、国が予算を出していると言うことです。

富士宮市では、2022年から始め、2024年8月で5名が活動しているようです。具体的には、地方自治体が募集を行い、地域おこしや地域の暮らしなどに興味のある都市部の住民を受け入れて、地域おこし協力隊員として委嘱する。隊員には地域のブランド化などに積極的に携わってもらい、「地域協力活動」に従事し、あわせて隊員の定住・定着を図るというものです。

主には、都市部（大学生などの若者）からの流入も狙ってのことです。素晴らしい取組ですが、もう一方の、**私たち、地域に住むもの達も、もっともっと、地域の素材に気付き、ブランド化して世界に発信したいと思うのです。**「宮」は富士宮、富士の中心であり、地域の魅力に溢れています。世界の同じような背景を持つ都市と、比較して、類似や相違を考えると、「宮」の魅力に気づくはずで

す。地域おこし協力隊の面白い活動を学んだり、連携したりして本校からも発信してみたいと夢を持ちました。



学校施設をもっと魅力的に！90周年記念事業をスタートします！

富士宮北高校は、今年、創立88年目を迎えています。昨今の経営予算の削減で、大きな記念事業はできませんが、90周年に向けて、学校施設を点検し、**地域の学びの拠点とするべく、グラウンド周辺**等整備したいと考えています。本校は、富士宮の魅力を発信するために高等教育との接続や、**地域のスポーツのメッカとなれるようなコミュニティコモン**を目指すべきなのではないかと、学校長として常日頃から思っています。その一歩となるような企画や働きをしますので、みなさん、ぜひご協力をお願いします。



共生・共育委員会における研修で、一歩前へ！

令和7年度、本校の学校経営計画において、「共生・共育」を位置付けています。その一環として、（少し時間が経過して申し訳ない）8月29日に第2回共生・共育に関する委員会を研修会方式に変え、「**2学期以降の交流に必要なアイデアや意見を出し合ったり、情報共有をしたりして、共生・共育の推進と生徒の声を実現した交流を考える**」というテーマで、1学期に本校の生徒が、分校のカリキュラムを見て、回答したアンケート結果をもとに対話型のアイデア出しを行いました。みなさん、「研修会」にも関わらず、とても楽しく盛り上がっていました。

【実現できそうなことはこれ!!】として、各グループが出したアイデアは次のとおりです。

グループ1：家庭科の授業で、ミシンの使い方を教えてもらう＝レザー製品の体験。

グループ2：球技大会参加

グループ3：お弁当を一緒に食べて、おしゃべり大会

グループ4：タンタムタイム（総合的な探究の時間）で一緒に学ぶ

＝職業にもつながる→質問、時間調整は可能なのか

グループ5：球技大会、北嶺祭体育の部も一緒にやっているし、種目を工夫する

グループ6：インスタ動画の共同作成

グループ7：ランチミーティング、ティータイム、テーマを決めて語り合う「恋愛」など

グループ8：トークバトル、ピクニック

グループ9：1つの作品を合同で作る美術作品＝放課後、代表者集まって作成する

令和7年4月静岡県教育委員会は、「静岡県における共生・共育（静岡県版インクルーシブ教育システム）の在り方」を公表しました。その中で、基本方針の後半で、「障害の有無にかかわらず、全ての幼児児童生徒がこれまで以上に同じ場で共に学ぶことを追求する。」としています。本校の在り方は、少しずつそれに近づきつつあります。



中学生の一日体験入学、ありがとうございました。

9月13日、27日の両日、中学生の一日体験入学を行いました。正確な参加者は、把握できていませんが、2日間で550人近い生徒と、保護者が来校されたようです。土曜日にも関わらず、お越しいただいた皆様、ありがとうございました。また、校内の担当の先生はじめ、授業参観、受付業務、部活動案内など、笑顔の中で、対応いただき、心から感謝します。

中学生が、そろりそろりと授業に入る様子や、保護者ときれいで、新しくなった校舎について語っている会話、本校の先輩との対面や同級生とのヒソヒソ話と、校舎内を回りながら大変勉強になりました。好意的で、本校を良くみていただいていたと嬉しく思う場面が多かったです。私も全体会の冒頭で挨拶をさせていただきました。4校連携について触れましたが、中学生は、やはり、「**富士宮北高校**」を見にきていて、**その魅力を感じたいのだ**と心底思いました。まずは、「**富士宮北**」ブランドの魅力を高めるため、**世界基準で日常の教育活動の充実**を目指しましょう。

柚野（YUNO）の里 — 「富士宮の奥座敷」にしたい—

「富士宮の奥座敷として魅力を発信し続けたい」これは、富士宮の柚野に住む高瀬幹雄さんの言葉です。

ギフチョウの会などの事務局をしたり、上柚野の草刈隊を組織していたりされている方です。私は、地域のことを知りたいと思い、富士宮市を中心に中学校などを訪れてきたのですが、本当に魅力的な土地ばかり。中でも、柚野（YUNO）の魅力に、ハマってしまっています。

日本人のDNAにインプットされているのではないかと思う風景の魅力を感じ、無音の自然に心が癒される。山合いの豊かな四季の色は、富士宮の空間をVR（バーチャルリアリティ）などに表現して、お土産にしたら喜ばれるのではないかしら…。

みなさんの探究で、私を、世界の「富士宮」探しに連れて行ってください。

